



2007年(平成19年)3月期

中間決算説明会

2006年11月

**ケンコーマヨネーズ株式会社**

# 目次

ページ

1. 2006年(平成18年)9月中間期の概況及び  
2007年(平成19年)3月期業績予想 ..... 2
2. 経営成績の推移及び今後の経営戦略について ... 11

1. 2006年(平成18年)9月中間期の概況  
及び 2007年(平成19年)3月期業績予想

# (1) 当中間期における活動の概況



- ① ISO14001(環境マネジメントシステム)の認証を取得・・・東京本社、厚木工場
- ② Salad Cafe 高島屋京都店オープン(8月)
  
- ③ 海外事業の展開  
中国におけるサラダの製造・販売会社である健可食品(東莞)有限公司が  
当年1月より事業を開始致しました。
  
- ④ 内部統制へ着手  
当年4月より、全社的なプロジェクトチームを発足し、2009年3月期からの  
スタートへ備え、体制作りへ着手致しました。
  
- ⑤ 子会社である関東ダイエットクックの再編  
(株)関東ダイエットクックはケンコーマヨネーズ(株)からの生産委託事業(ロング  
ライフサラダ事業)と独自の販路による直売事業(フレッシュサラダ事業)と  
いう2つの事業を行っていましたが、各々の事業へ特化させる為に、当社  
グループ会社へ事業ごとに譲渡を行いました。

## (2) 経営成績



### <連結>

(単位:百万円)

	2006年9月 中間期	2005年9月 中間期	増 減	前年同期 比
売上高	25,526	25,351	174	100. <sup>7</sup> %
営業利益	1,476	1,168	308	126. <sup>4</sup> %
経常利益	1,423	1,147	276	124. <sup>1</sup> %
当期純利益	914	84	830	1,083. <sup>6</sup> %

### <個別>

(単位:百万円)

	2006年9月 中間期	2005年9月 中間期	増 減	前年同期 比
売上高	21,375	21,827	△452	97. <sup>9</sup> %
営業利益	1,176	1,060	116	111. <sup>0</sup> %
経常利益	1,143	1,053	89	108. <sup>5</sup> %
当期純利益	729	87	642	836. <sup>5</sup> %

## <連結経営成績の概況>

### 1. 売上高(前年同期比 100.7%)

『DASH SALAD』における売上目標600億円に向け、具体的な行動計画の策定及び推進の為に、社内CFT(クロス・ファンクショナル・チーム)<sup>※</sup>を分野別、品目別に発足させ、各々の命題について実行しております。

当中間期における売上高は前中間期と比べ微増にとどまりましたが、このCFTの活動による効果が下期より見込まれております。

〔<sup>※</sup>CFT＝従来の縦割り組織に横軸を通した形でプロジェクト・チームを発足させ組織全体で改善策等を検討する部門横断型組織。〕

### 2. 経常利益(前年同期比 124.1%)

前期まで進めて参りました中期経営計画『ケンコー・リバイバル・プラン520(KRP520)』による収益基盤強化の改善効果が、この中間期においても表れております。特に子会社において収益力改善のペースはグループ中核企業であるケンコーマヨネーズ(株)を上回る勢いで進んでおります。

また、当社グループにおける主要な原料であるサラダオイル、卵の原料事情が好転したことも増益要因であります。

### 3.当期純利益(前年同期比 1,083.6%)

前期より適用されました減損会計及び財務の健全化を図る為に繰延税金資産をより厳格に見積り直す等、前中間期は当期純利益に対してマイナスに働く特殊な要因がありましたが、当期中間期では大きな損失はありませんでした。

### (3) 財政状態<連結>

(単位:百万円)



		2006年9月中間期 (06年9月30日現在)	2006年3月期 (06年3月31日現在)	増減	前年 同期比
資産の部	流動資産	15,200	12,667	2,532	120. <sup>0</sup> %
	固定資産	12,590	12,968	△378	97. <sup>1</sup> %
＜資産の部 合計＞		27,790	25,636	2,153	108. <sup>4</sup> %
負債の部		20,585	19,062	1,523	108. <sup>0</sup> %
	(うち有利子負債残高)	7,627	7,791	△164	97. <sup>9</sup> %
少数株主持分		—	48	△48	—
純資産の部		7,204	6,526	678	110. <sup>4</sup> %
＜負債・純資産の部等 合計＞		27,790	25,636	2,153	108. <sup>4</sup> %
1株当たり純資産		637 <sup>円</sup> 80 <sup>銭</sup>	578 <sup>円</sup> 60 <sup>銭</sup>	59 <sup>円</sup> 20 <sup>銭</sup>	110. <sup>2</sup> %
株価(中間期末または 期末時点)		1,010 <sup>円</sup>	941 <sup>円</sup>	69 <sup>円</sup>	107. <sup>3</sup> %
PBR(株価純資産倍率)		1. <sup>58</sup> 倍	1. <sup>62</sup> 倍	△0. <sup>04</sup> 倍	97. <sup>5</sup> %

※期末発行株式数 2006年9月中間期:11,226,120株

2006年3月期:11,227,720株



## <連結財政状態の概況>

### 1. 流動資産(+25億円)

当中間期末は金融機関の休業日であった等により、受取手形及び売掛金が18億円増加しました。また、現金及び預金も前期末の21億円から当中間期は28億円と7億円の増加でありました。

### 2. 固定資産(△3億円)

当中間期末の設備投資は少額の修繕的投資が主であった為、投資総額より減価償却が上回った事により、有形固定資産は2億円減少しました。また、投資有価証券に関して、前期末時価との評価洗替により1億円減少しました。

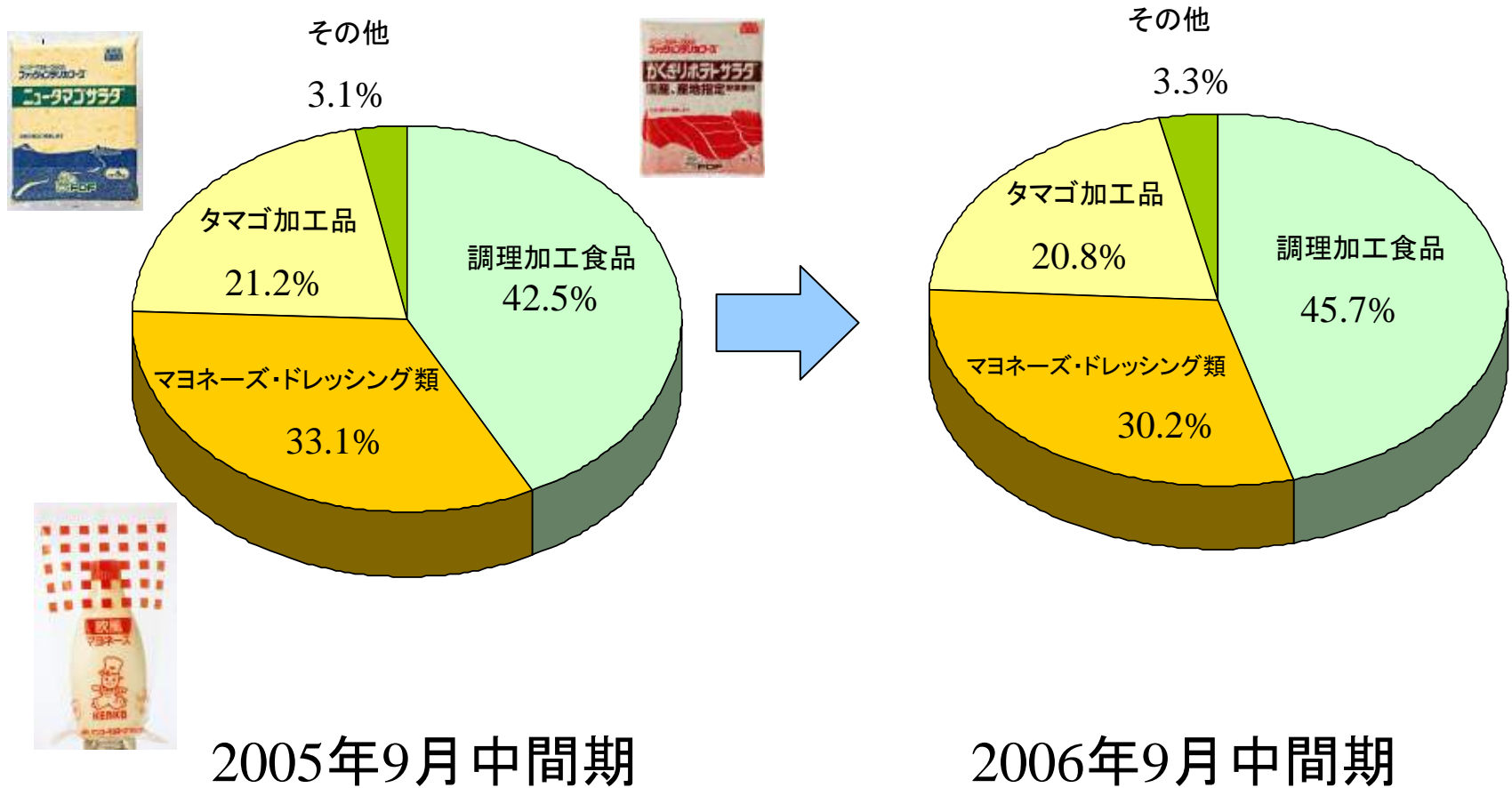
### 3. 負債の部(+15億円)

当中間期末は金融機関の休業日であった事等により、支払手形及び買掛金が15億円増加しました。また、有利子負債に関しては、金利変動リスクを回避する為に、短期借入金から固定レートによる長期借入金へのシフトを進めました。

### 4. 純資産の部(+6億円)

内部留保に関しては、当期純利益9億円の積み増しをすることができました。これに対する社外流出に関しては記念配当を含め2億円でありました。この記念配当は『KRP520』の目標を1年前倒して達成できた事により、株主の皆様への還元を実施したものであります。

# (4) 連結売上高構成比の比較



## (5)2007年3月期の通期業績予想



<連結>

(単位:百万円)

	2007年3月 期(予想)	2006年3月 期(実績)	増 減	前年同期比
売上高	52,000	50,079	1,921	103. <sup>8</sup> %
経常利益	2,580	2,533	47	101. <sup>9</sup> %
当期純利益	1,380	1,322	58	104. <sup>4</sup> %
1株当たり当期純利益 (※注1)	122 <sup>円</sup> 92 <sup>銭</sup>	115 <sup>円</sup> 11 <sup>銭</sup>	7 <sup>円</sup> 81 <sup>銭</sup>	106. <sup>8</sup> %
株価(※注2)	960 <sup>円</sup>	941 <sup>円</sup>	19 <sup>円</sup>	102. <sup>0</sup> %
PER(株価収益倍率)	7. <sup>81</sup> 倍	8. <sup>17</sup> 倍	△0. <sup>36</sup> 倍	95. <sup>6</sup> %

※注1 期中平均株式数 2007年3月期分は2006年9月中間期の11,226,887株で代用しております。  
また、2006年3月期は11,229,987株です。

注2 2007年3月期における株価は直近11月21日現在の終値で代用しております。

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

## 2. 経営成績の推移及び 今後の経営戦略について

## <中期経営計画『DASH SALAD』について>

### (1)『DASH SALAD』をスタートさせた背景及び目的

当社グループにおきまして、前期まで推進して参りました中期経営計画『KRP520』は、「事業構造の再構築」をテーマとして、収益力の強化と財務体質の改善を実現し、次なる発展へ向けての経営基盤づくりをする事が出来ました。

この経営基盤づくり完了を受けて、更なる企業価値向上と健全かつ永続的な発展の為に、新中期経営計画『DASH SALAD』をスタートさせました。

### (2)2009年3月期における数値目標

- |                 |       |
|-----------------|-------|
| ① 連結売上高         | 600億円 |
| ② 連結経常利益        | 30億円  |
| ③ ROA(総資本経常利益率) | 10%   |

### (3) 具体的な施策

#### ① サラダNo.1企業としての確固たる位置づけの確保

本体でのロングライフサラダ事業及びマヨネーズ・ドレッシング事業、関係会社でのフレッシュサラダ事業、サラダカフェでのサラダショップ・ウェブ直売事業と三位一体経営で情報交換を行い、お客様に情報、商品、サービスを提供し、満足をお届けします。又、サラダを惣菜の一分野と捉え、惣菜全体を提供できる企業を目指します。

#### ② 企業価値向上及び健全な発展に向けての取り組み

社内に「企業価値向上委員会」を設置し、IR活動の推進、リスクマネジメントシステムの構築、地域貢献活動の推進等、様々なテーマを掲げ、企業価値の向上だけでなく、企業としての健全性を確保できる体制づくりに向けて活動しております。

#### ③ 永続的な発展に向けての取り組み

2006年9月中間期の概況でも述べました通り、社内CFTを分野別・品目別に発足させ、具体的な行動計画を策定し、推進しております。

④生産能力増強への取り組み

既に開示しております通り、京都府舞鶴市にサラダの生産工場を新設する事を決定致しました。

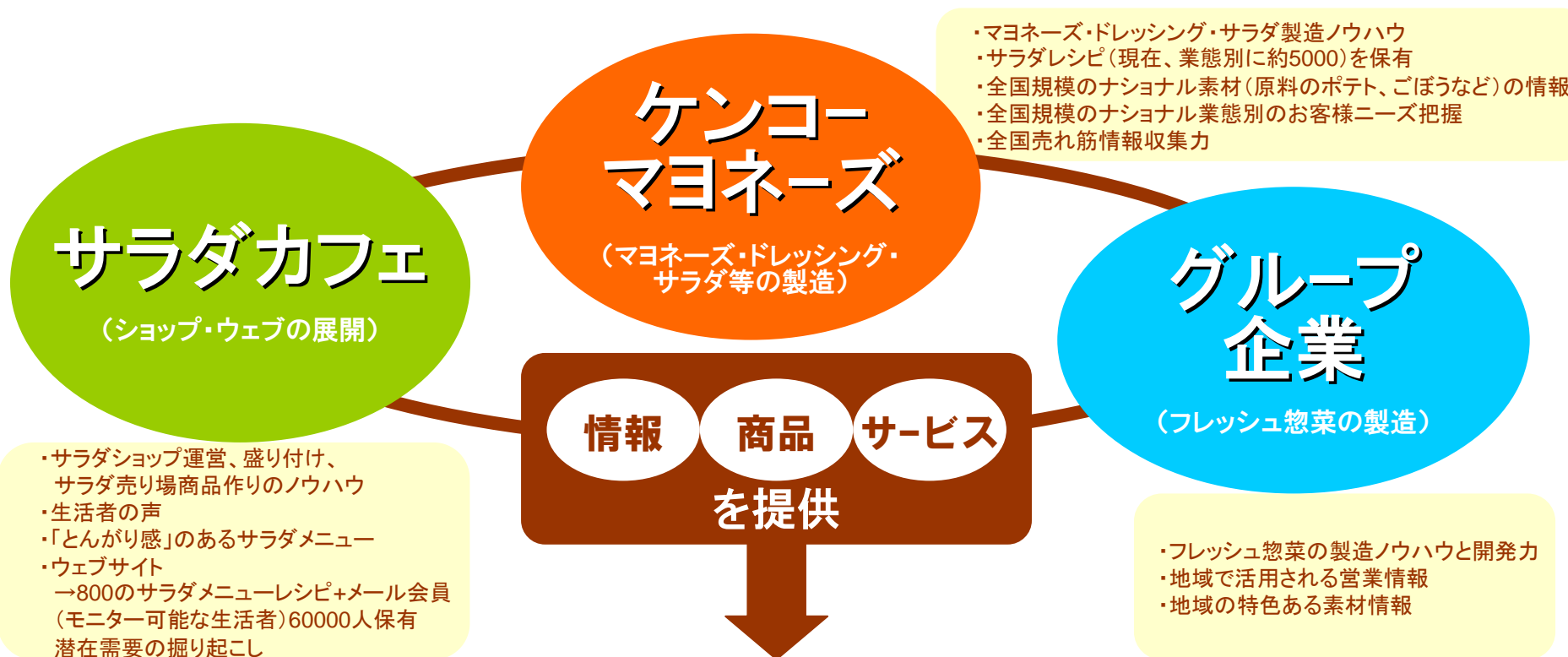
今後も売上高600億円に向けた生産能力の増強を順次実行して参ります。

⑤新規事業への取組み

デパ地下などの直営店舗を運営するサラダカフェ事業は、当社グループの成長を支える柱として位置づけており、今後も新規の出店を進めて参ります。また、中国に設立致しました健可食品も、この1月より事業を開始し、中国圏でのサラダ食文化の普及促進に努めて参ります。

# ケンコーマヨネーズグループ三位一体でのお役立ち

それぞれの機能を有機的に発揮し、潜在需要の掘り起しから商品の提供までを、お客様とのパートナーシップにより実現します。

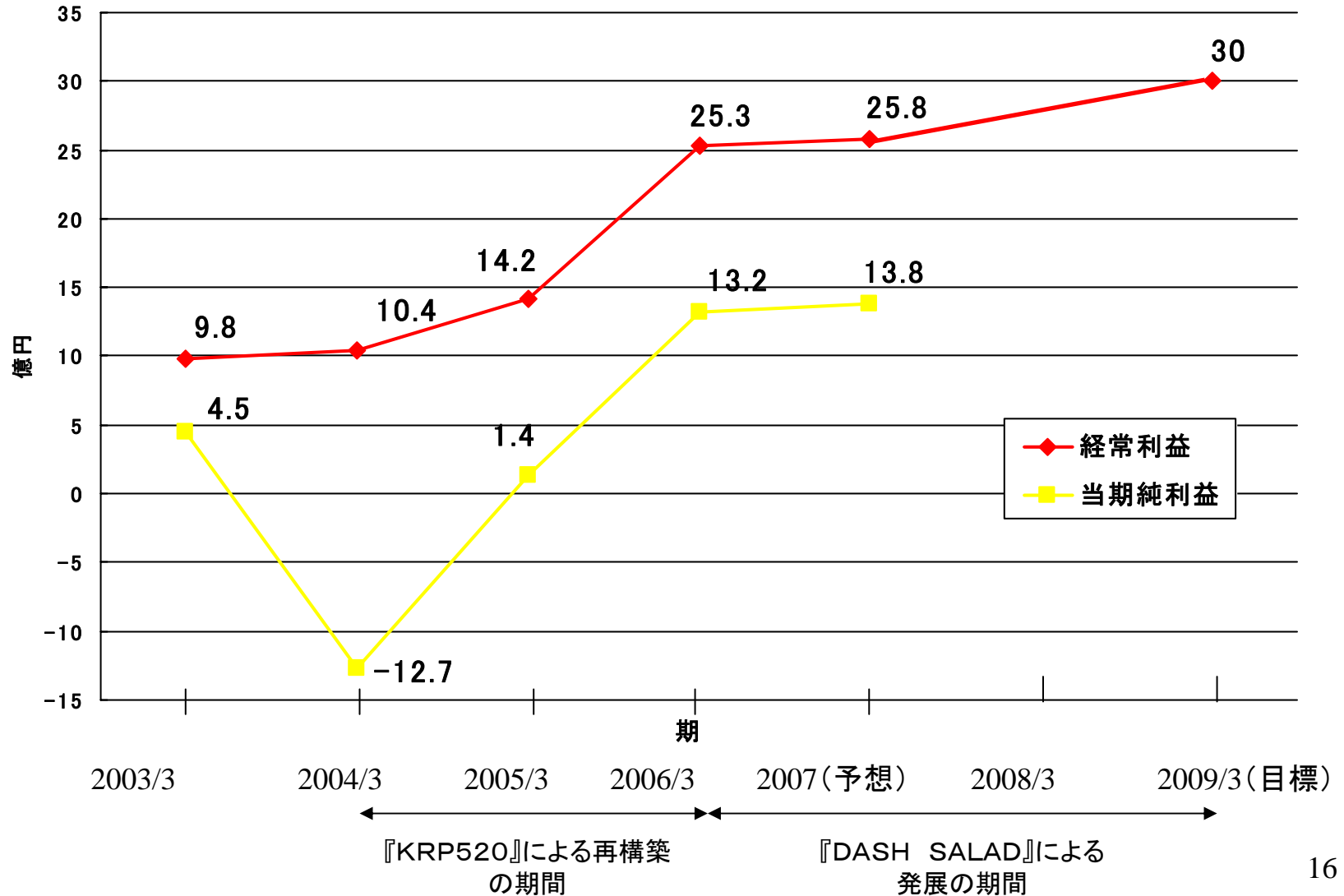


## お客様の満足

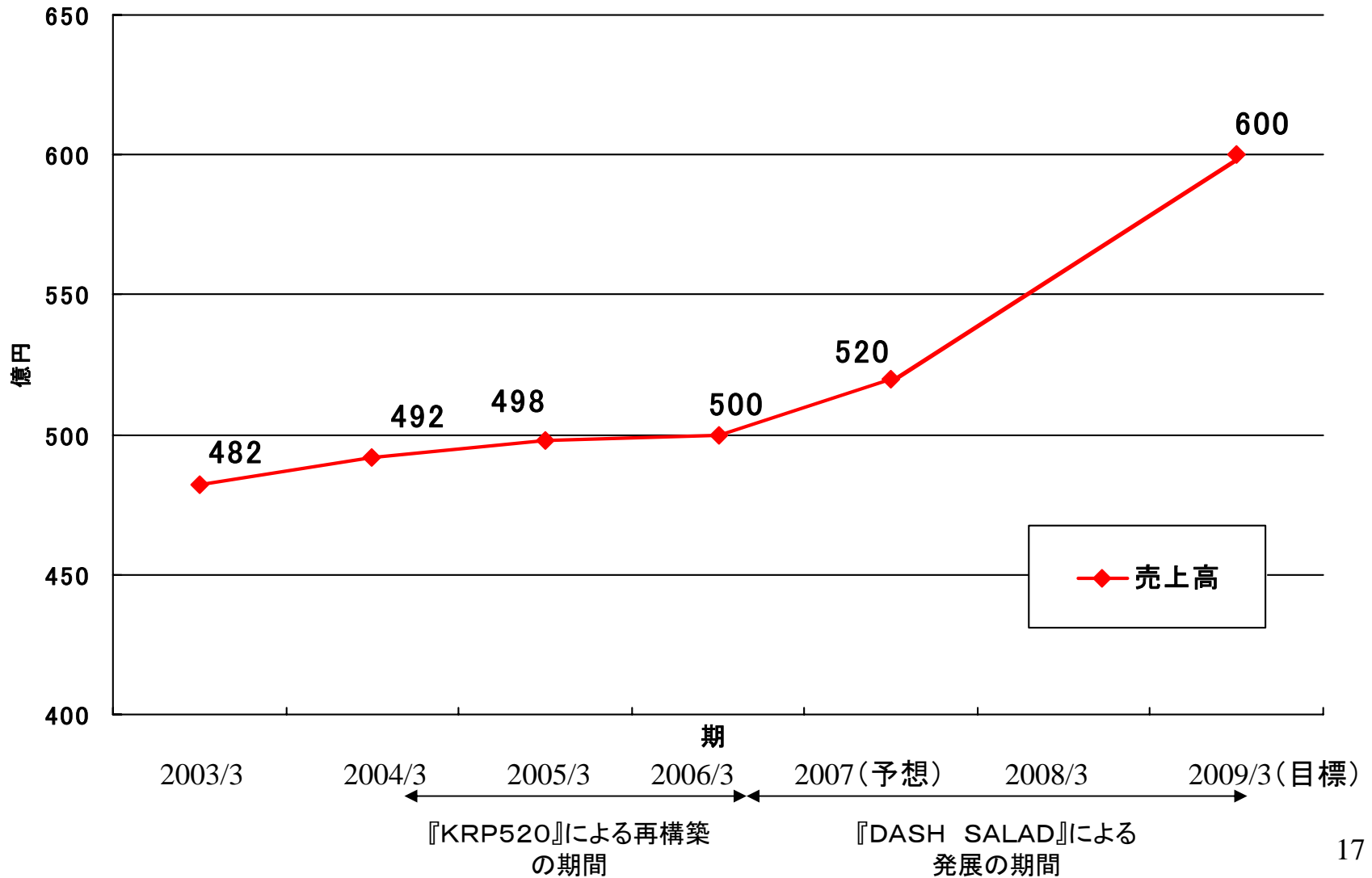
ケンコーマヨネーズグループは、お客様(生活者)に満足いただけるよう、情報、商品、サービスを提供し続けます。



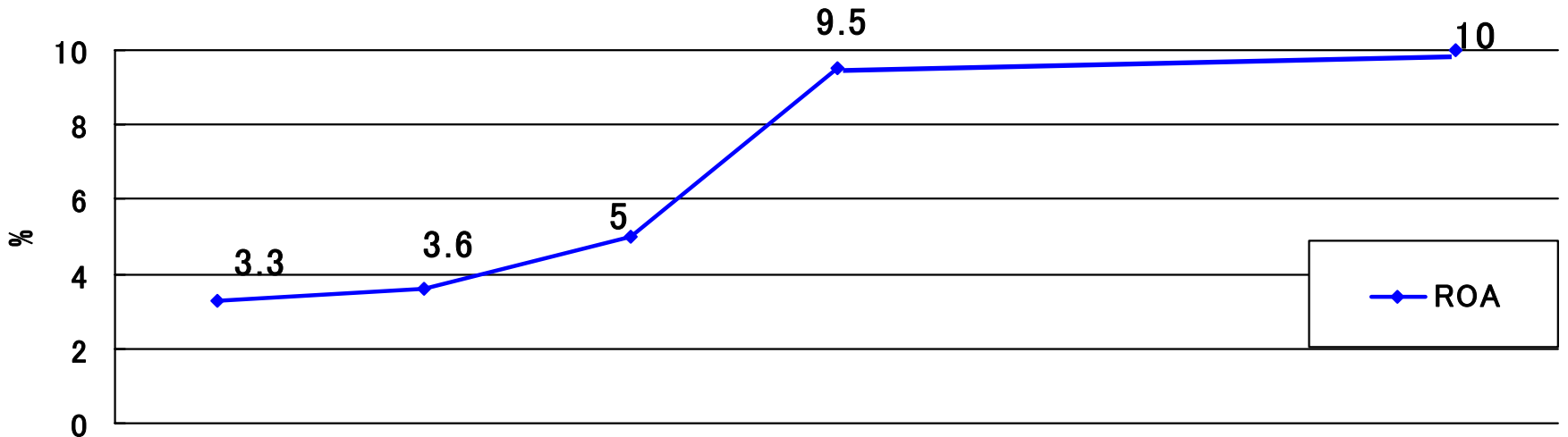
# 当社グループの業績推移



# 当社グループの売上推移



# 当社グループのROA(総資本経常利益率)推移



期  
 2003/3      2004/3      2005/3      2006/3      2007(予想)      2008/3      2009/3(目標)

← 『KRP520』による再構築の期間      『DASH SALAD』による発展の期間 →

## <推移表について>

### 1. 業績推移

『KRP520』における財務リストラ及び収益構造の再構築によって、V字回復を成し遂げ、収益力は格段に強化されました。『DASH SALAD』においては更なる強化・成長を進め、経常利益目標は30億円としております。

### 2. 売上高推移

『KRP520』における経営基盤づくりが完了した為、『DASH SALAD』においては永続的な発展をテーマに、3ヶ年での売上高100億円増を目指しております。

### 3. ROA推移

『KRP520』における財務リストラにより、ROAは9%台まで大幅に向上致しました。今後は事業基盤の強化・拡大を目指し、総資本の増強を図りますが、収益力も強化させる事により、ROAは10%を目標としております。

We love salad



ケンコーマヨネーズ

本資料に関するお問い合わせ

ケンコーマヨネーズ株式会社 IR室

URL: <http://www.kenkomayo.co.jp>

TEL : 03-5317-1152



Salad Cafe近鉄百貨店阿倍野店



Salad Cafe SALA PARA  
阪急百貨店うめだ本店

当資料は現時点での計画、見通し、戦略など入手可能な情報から得られたものであります。実際の業績は、さまざまな重要な要因により、これら業績見通しとは異なる結果となる可能性があります。実際の業績に影響を与える重要な要素として、主要な原料でありますサラダオイル、卵、野菜の購入価格の為替相場及び市場相場の変動があげられます。当社の売上原価に占める原材料比率のウェイトは高く、購入価格の変動により、当社の経営成績に影響を与える可能性があります。